

かほだより

夏前にサシバエ対策!!

日ごとに暑さが増し、牛舎内にサシバエが入り込む季節になりました。血液を介して感染する可能性がある牛白血病等の感染防止や牛のストレス軽減のために、積極的にサシバエ対策を行いましょう。

サシバエの発生

○有機物(糞や敷料)があり、水分が多く牛に踏まれにくい場所

- ・畜舎の柱周辺や隅などの除糞し難い所
- ・カーフハッチ周辺や飼槽、水槽の周辺
- ・堆肥舎

このような場所を掘って、実際に幼虫がいるかを確認してみましょう。

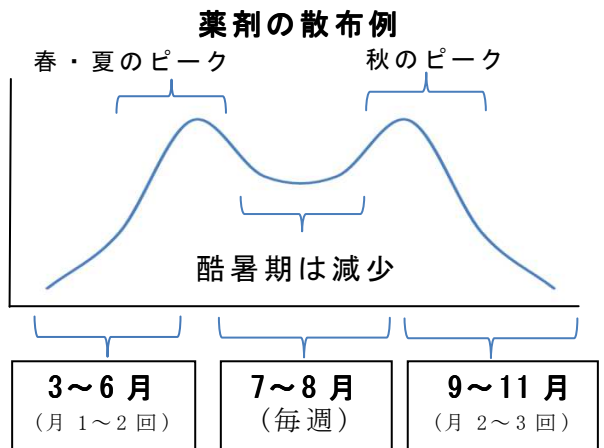


サシバエ対策のポイント

サシバエは春から発生し5月頃と秋にピークを迎えます。大量発生してから殺虫剤を空中噴霧しても効果はほとんどありません。対策のポイントは幼虫の段階で個体数を増やさないようにすることです。そのためには5月からの対策が重要となります。

- ・発生源になる糞便や残餌の徹底的な掃除
- ・発生源となりそうな場所へIGR剤(昆虫成長制御剤)や殺蛆剤を散布

サシバエ(成虫)の数

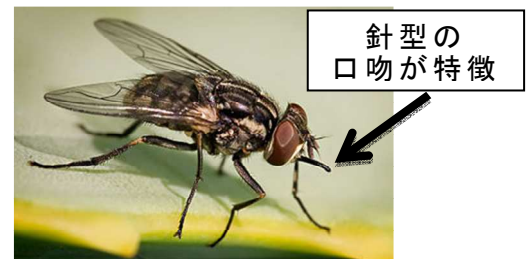


薬剤散布頻度

使用薬剤(例): ピリプロキシフェン 20g/m²

サシバエ対策のポイント

- ① ハエ取り用粘着シートを牛舎と外部との境界部分に設置するか、飼槽の前面に張り付ける。
- ② 牛舎の出入り口や窓を防虫剤入りネット、または2ミリ以下のメッシュのネットで被覆する。
- ③ 電撃殺虫機を設置する場合は牛舎と外の境界や牛舎内の空気の淀む所の低い位置(サシバエは90~120cm位の所を飛んでいます)に設置する。
- ④ イヤータグ型の殺虫剤を装着する。
- ⑤ 発生源となりそうな場所へIGR剤や殺蛆剤を散布する。
- ⑥ 計画的に殺虫剤を散布する。
- ⑦ 畜舎周辺の草刈り、整理整頓を行う。
- ⑧ 暑熱対策で送風するとサシバエが牛体に寄りません。

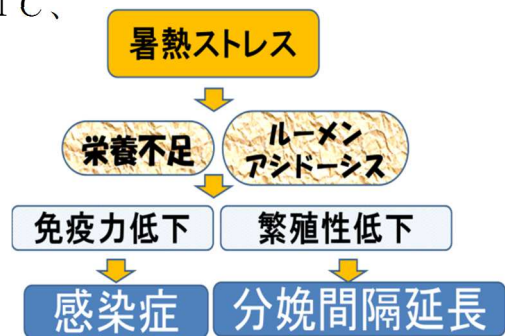


サシバエの特徴

- ・♂体長3.0~6.5mm、♀体長5.0~8.0mm
- ・吸血は夏は朝夕、春と秋は昼に行うことが多い
- ・吸血時以外は牛舎周辺の草むらや木陰で休息している

夏前に削蹄・種付け！！

今年も猛暑が予想されます。泌乳牛では21℃、肉用牛では25℃を超えた場合、採食量低下、発情微弱化、受胎率低下などがみられます。夏本番を迎える前に採食量低下防止に削蹄をしましょう。



暑熱期の繁殖管理

○発情を絶対に見逃さない。

暑熱ストレスで卵巣機能が低下し発情が微弱になります。暑熱期の発情観察はいつもより回数や時間を増やしてください。

○牛の状態をよく観察する。

残餌等に注意して採食量を確認するとともに、呼吸数・便の状態・選び食い・横臥時間等を注意深く観察してください。

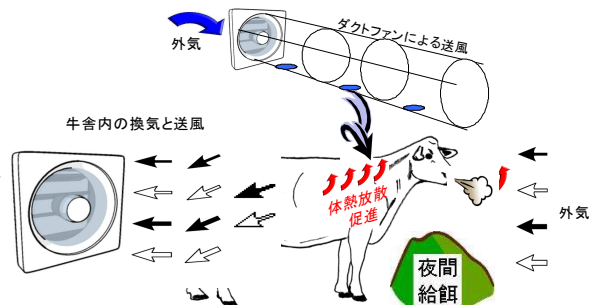
○受精卵移植を活用する。

受精卵は暑熱の影響を受けにくいため、夏期の受精卵移植は効果的です。

暑熱対策

ポイント1 牛体に風があたっていますか？

トンネル換気、細霧システム、ダクトファン等を取り入れ、確実に風が牛体に当たるようにしましょう。



タイストール乳牛舎における暑熱対策システム
(平成23年度 長野県畜産試験場)

ポイント2 舎内環境を改善しましょう!!

屋根への散水、石灰塗布等で、舎内温度が数度下がります。

ポイント3 飲み水に注意してください!!

きれいな冷たい飲み水を常に飲めるようにしましょう。夏は飲水量が増加し1頭1日100%以上にも及びます。

牛の快適性を高めることで生産性を高めましょう

ご不明な点、暑熱による被害等がありましたら
家畜保健衛生所へご一報願います。

長野県松本家畜保健衛生所 電話：0263-47-3223 (FAX 47-0101)